

## まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：教育分科会（第4回）

開催日時：平成21年10月15日（木）13時00分～16時40分

開催場所：教育委員会6階 会議室

出席委員：海老名みさ子、鎌形武久、神山真理、小林恵美（副分科会長）、三枝雅信（分科会長）、竹島さゑ、橋本恵子、山口和子、関聡、山口明、難波幸男（敬称略、順不同）

欠席委員：なし

事務局：伊東朱美、久富博之（政策調整課）

### 【会議内容】

#### ■分科会会長挨拶

いよいよ最終回、家族・学校・地域の緊密なコミュニケーションで松戸の教育レベルを向上させることを考えたい。現在は地域のきずなが弱まって、様々な活動が衰退している気がするが、子どもが参加しやすいように工夫すれば、地域型コミュニティもなんとかなるのではないか。また、趣味を同じくするテーマ型コミュニティは盛んになってきており、今後主流になってくるだろう。宣言文は抽象的だが、今日具体策を詰めていければと思う。よろしく願いしたい。

#### ■前回分科会の議事録の取り扱いについて確認

- ・修正なしとして委員は賛成し、議事録を確定した

#### ■本日のねらい：「市民と行政それぞれの役割」と「指標」の作成

- ・前回まとめた「目指したい姿」の実現に向けて、市民と行政がそれぞれどんな役割を果たしていったらいいのかを検討する。
- ・また、そうした役割を遂行していくことで、最終的にどんな状態に達したいのかを「指標」という形で表わし、提言していく。

#### ■話し合いのルール

- ⇒全ての意見に価値を置く
- ⇒人の話をよく聴く
- ⇒想いや考えは全体で共有する
- ⇒時間厳守
- ⇒未来に焦点をあてる

■ チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■ 「目指したい姿の宣言文」の確認・修正

以下のような意見があった。

#### 政策 7

・生きる力＝知・徳・体のバランスとあるが、「知」や「体」の部分には障害者の関係の方々が多いので、見直した方がいいのではないか。

→誤解を招くようなら、「知・徳・体のバランス」はカッコ内にあるので、削除してしまって、「生きる力」の説明が必要な時に出すことにしたらよい。

・「家族」は教育の原点として大事だから、「家族」を入れたい。

→家族というより「家庭」がふさわしいと思うが、今回は入れる余地がないようなので難しいかもしれない。

→家庭と学校と地域の3者が大事だとは思いますが…。

・「地域」という言葉が二つあるから、後ろの地域は不要ではないか。

→「新しい関係」を強調するためにあえて入れているから、修正しなくてもいいと思う。

政策 8、9 に関しては特に異論なし。

■ 事務局より「市民と行政それぞれの役割」について説明

・「市民と行政のそれぞれの役割」とは、目指したい姿の宣言文を実現するために、市民と行政それぞれがどのような役割を担い、どのように関わっていくのかを指針としてまとめたもの。また、市民と行政に期待したい「想い方」「行動（取組み）などを具体的に示したものと言える。

・市民と行政それぞれの役割」を検討することで、今後市民と行政が目指したい姿に向けて施策を検討したり、サポートを行ったり、協働する際の指針を明らかにする

・「市民の役割」については、目指したい姿の実現に向けて、市民の役割として、期待される態度や行動（取組み）にはどのようなものがあるかを検討する。

・「行政の役割」については、目指したい姿の実現に向けて、市民の役割として、期待される態度や行動（取組み）にはどのようなものがあるかを検討する。

■ 事務局より、「指標」についての説明

・「指標」とは、政策ごとに作成した「目指したい姿の宣言文」の達成状態を表すための尺度のことを指す。あるいは、「市民と行政のそれぞれの役割」を推進することで、高めていきたいこととも言える。

■事務局より、指標を検討するねらいの説明

- ・目指したい姿の達成イメージを指標として表すことで、より明確になる。
- ・目指したい姿を実現するために、具体的に何を行っていけばよいかを検討しやすくなる。
- ・指標があると、それに照らして、政策がうまくいっているか、いないかが理解でき、進行状況を確認できる。

■「市民と行政それぞれの役割」と指標を検討するための素材（アイデア）を個人で検討（個人でポストイットに記入する）

- ・「目指したい姿の宣言文」を実現するために、市民と行政にどういう意識をもって、どういう行動をしてほしいかを考え、「市民の役割」、「行政の役割」として検討する。
- ・それらの「市民の役割」「行政の役割」を果たしていくことで、何が高まっていったらいいのかを考え、それらを「指標」として表す。

■作成した素材を全体で共有（ポストイットを模造紙に貼る）

■作成された「市民の役割」、「行政の役割」、「指標」の素材を眺め、感想や質問等を通じて対話

政策7「市民の役割」

- ・ポストイットを同じようなものでまとめていくと、家庭と地域の2本柱ができそう。
- あまりまとめすぎると具体的な部分が落ちてしまうので、無理にまとめない方がいいかもしれない。主語を家庭と地域にして、地域をさらに分けるということもできるし、一つにしなればいけないものではない。
- ・子どもが専門家を通して目標を持てるような機会があるといい。
- 確かに、具体的・専門的な知識のある方が目標を持ちやすいだろう。この政策が将来の目標をもつことなので、それは大事。
- 宣言文の中に、「将来の目標」という言葉が必要なのではないか。
- 逆に言うとそれは政策名に入っているので、ここではもっと具体的な役割を検討したほうがいいと思う。それを行政が受けて検討することになる。
- ・市内で専門分野を持つ人が、子どもに刺激を与えるような制度、機関を作っていくというのはどうか。
- そういう制度といえば、既に「人材バンク」があるが活用されていない。むしろ、それを利用するシステムを発展させるのが重要ではないか。

- 高度な専門性でなくても、学校の先生でお手本にしたいとか、親の仕事をつぎたいとか、そういう身近なレベルでもいいと思う。
- 確かに、「専門分野」という言葉は重すぎるのではないか。市民が「子どもの手本となる」、そういう姿をみせる、心がけるくらいではどうか。
- 活動の担い手はあくまで市民だから、機会とか制度の話を考えるなら行政の役割になる。その意味で、ここでは機会ではなく市民がどうしていけばいいかを考えたほうがいいのではないか。それを踏まえて行政の役割はどうか、ということになると思う。
- 担い手となる地域・市民の質が向上し、企画力を持たないとダメだと思う。
- ・子ども達が様々な人と接する機会を増やし、それによって学ぶことが大事。
- それは、逆に市民が子どもと接する機会を増やすということか。
- そのとおりで、自然に地域の大人が子供と接する機会を増やせたらいい。ゆとり教育はそれを狙った部分もあったと思うが、違う方向に行ってしまった。
- 今の子どもたちは職業の種類にしろ、自分たちの子どものころと比べ知識は非常に多い。しかし、その知識を体験した人から得ていないので、実感として定着していないのが大きな問題。だから、接する機会はとても大事。
- ・価値観の多様化、異文化交流の重要性を入れたい。
- 確かに大人も子どもも異文化に接するという一つの流れがある。また、本の話もポストイットには出てきているので、本に接する機会を増やすとか、その辺の具体的なことも出したほうがいいのではないか。
- ただ本だけでなく、スポーツやいろいろな趣味、異文化との交流も入ってくるのだから、「多種多様な文化」を子どもたちに触れさせるというような表現がいいと思う。
- 「行政の役割」
- ・主語に着目すると、「学校」と「教育委員会」、「行政」はそれぞれ同じ意味なのか違う言葉なのか。「学校」といえば特定の学校を指す場合もあるし、全体をまとめてさす場合もある。
- そのあたりは厳密に使うと異なるが、普通の人にはわからないし、区別することがそれほど重要と思えないので、図書館などの具体的組織名を使うか、「松戸市」と大きくりにした方がいい。
- ・行政の役割の部分の主語は、全部「松戸市」でもいいと思う。そうすれば、例えば「市は図書館を充実させる」というようにすることで、個別分野の話でも簡潔に表現できる。ただ、図書館でも学校図書館なのか、地域の図書館なのかで異なる場合は主語も分けたほうがいい。
- ポストイットの中には国や県に対するものもあるから、そこをどうするか。市に国や県へ働きかけてもらうということはある。

コミュニティスクールというのが出てくるが、どういうものか。

→地域の代表が学校の先生方に混じって、カリキュラムや教員人事など、ある程度の経営方針に関与する制度。ただし、地域の代表といっても学校区に住んでいる人とは限らず、大学の先生とか有識者が入るケースもある。

→ただ、ここに入る市民はいろんな意味でレベルの高い人でないと、かえって無責任なことになりかねない。研究は継続的に行っている。

「指標」

・「地域之力」が宣言文に入っているから、「学校ボランティアの人数や種類」が指標になりうるのでは。

→今地域でさかんになりつつある見守りパトロールなども、学校ボランティアとして積極的にとらえることができる。

→学校ボランティアが増えれば、市民が学校に対してできることを探しやすくなる。聖徳の学生なども一部やってくれているが、学生はじめ多くの市民にやってもらいたい。

→学校ボランティアのニーズは、小学校か中学校かによって違ってくるが、違いを把握すると市民も学校のニーズを理解しやすくなるからよい。

→学校別のデータがあるとなおよいのではないか。数が多い学校ほど、地域之力を活かす姿勢が強いという指標になりうる。

・子どもの年間読書数も、文部科学省で把握している数値だから現実性は高い。

→それで読書数が多い子を「本の王様」というように表彰して、競争で本を読ませている学校もあるようだ。

## 政策 8

■時間もないため、各ポストイットに関して採決を行い、過半数を得たものを合意されたものとして検討することになった。

「行政の役割」

・市が催し物を「広報にて知らせる」というのがあるが、すでにやってはいる。

→ただやるという意味ではなく、スペースが足りなくなってきているので、工夫してやってほしいということ。

→この分科会で意思表示をすることで、もしかしたら達成されるかもしれないから、積極的に提言した方がいい。

・情報発信に力を入れるということと、活動している人へのテコ入れということの2つに分かれるのではないか。

「指標」

・「講座数」に関しては、講座そのものの数と参加人数の両方が増えたらいい。

→ニーズの多い時間帯を市が把握できれば、図書館の夜間開館のようなサービス拡大につながる。ただ、市は逆に不要な部分を切るのが下手なので、それ

をうまくやればニーズの多い部分にサービスを集中できる。  
→アンケート等でニーズをきちんと把握していけば、施設や時間の有効活用につながっていくのではないかな。

#### 政策 9

■時間もないため、まず各ポストイットに関して採決を行い、過半数を得たものを合意されたものとして残すことになった。

##### 「市民の役割」

- ・活動の主体はあくまで市民で、力をつけてきちんと活動するようになったら市が援助する、というのが基本姿勢。
- その意味で、奈良のように、市民みんなが市外の人を案内できるほど、松戸のことをきちんと知るのが大事。その啓発のために、市内のツアーや見学等も必要になってくるのではないかな。
- そうやって、伝統文化を継承していく努力は市民全員に必要。
- ・「全国大会等で活躍した子ども達の周知」という項目があるが、すでに音楽等に関して行政でやってはいる。ただ、入れる人数に限られるので関係者がほとんどになってしまいが。
- 周知するとなると市民が行うのは難しいから、これは行政の役割に入れたほうがいい。

##### 「行政の役割」

- ・ガイドボランティアの育成に関しては、すでに市民主体の戸定邸案内のボランティアができていますので、必要性が非常に高いかは議論の余地がある。
- 「観光大使」等もいて、観光協会が任命しているので、こちらも民間ベースで活動がされている。
- そうだとすると、ボランティア育成というより、それを「支援」するほうに重点を置いたほうがよい。
- それに加えて、市の職員もきちんと松戸のことを学んでほしい。松戸市に勤めているのだから。
- ・市内の歴史文化に関する人材（伝統工芸士など）を活かし、もっと知ってもらいたい。その人達の活動の場も市外になってしまっている。
- 市民も、伝統文化に寄付するくらいの心構え、積極性が必要。
- この分野の活動主体はあくまで市民だから、まず市民がどんどんそういう方を応援する活動をして、それが高まってきて行政が出るのがいいと思う。
- ・戸定も、活用しながら保存することを提案したいが、条例で決まっているし分科会での同意も得られていない。
- 条例まで行ってしまうとなかなか現実的には動かしがたい。他の重要文化財をよく調査して松戸に活かす、という理念は合意できるが。

「指標」

- ・市外の人が観光スポットに来る人数、というのはいか。
- 観光スポットを全部に一度とかでなく、少しずつ期間や施設を区切ってやると、現実的にできるのではないか。
- それと反対に、市民はどれだけそのスポットに来ているのか、リピーター度をはかたらいいのでは。
- 市内と市外で分ける調査というのは、商圈調査などではよくあるが、観光分野ではあまりない。市民ならではの発想ではないか。

最後に具体的な提案として、政策9で出された「マンガ松戸市」と「松戸検定」を採用することを決定し、本日政策7, 8, 9で話し合った結果の模造紙を中心に、次回発表することとなった。

■次回分科会の日程の確認

日時：平成21年11月7日（土）

場所：松戸市商工会館 5階特別会議室

■チェックアウト

■分科会長あいさつ

松戸は昭和40年代に人が急増したが、人口変化は落ち着きつつある。その意味で、これからは土着しつつある人たちが歴史を作っていく時代だし、自分たちも一緒にやっていきたいと思う。次回全体会を楽しみにしている。

■第5回分科会兼第2回全体会の確認

- ・日時：平成21年11月7日（土）14～18時
- ・場所：松戸市商工会館 5階ホール
- ・目的：各分科会で検討してきた内容を全体に発表し、未来づくり会議の提案とすること。また、発表内容について、他のメンバー、市民、行政職員からのフィードバックを受けて、検討する機会ともすること。

■別紙「目指したい姿の宣言文とそのための役割分担、指標」

以上

目指したい姿の宣言文:

子どもたちが自立した人間になるために、地域の力と体験を活かした家庭、学校、地域の新しい関係を通して、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す

市民の役割:

- 家庭は学校や地域との接点を増やし、自分の家庭以外の子ども達や大人との関わりの中で社会全体で子どもを見守っていく
- 家庭教育の見直し
- 学校が運営しやすいように協力する
- 市民が持つ力を学校教育、地域活動に役立てる(ボランティア)
- 自分達の持つ種々の技術、能力を出し合って学校や行政に協力する
- 市民は子供たちと接する機会を増やす
- 市民は、専門分野を持つ人が子ども達に将来目標につながる機会を与えられるシステム作りを目指す

-----  
行政の役割:

- 学校図書館の充実に向けて、もっと研究し実現する
- 図書館の拡大・充実(空教室の活用)
- 学校経営しやすい仕組みを考えて、予算等もできるかぎり増やす
- 行政は地域に「宿題道場」のようなものを開き、地元の人材を投入
- 教育委員会は、地域力を把握し、活用する窓口をつくる
- 学校は地域に求める「力」の情報発信をする
- 教育委員会は、学校が求めている地域の力を調べ、住民に情報発信する
- 学校は説明責任を果たす

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 学校ボランティアの数、種類
- 学校では「心の豊かさ」を育む体験活動の実施回数

## 政策8:生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

目指したい姿の宣言文:

生涯を通じて学び続ける楽しさを味わうために、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるようにする。

市民の役割:

- 中・高齢者は、市や県が手を差し伸べるのを待つのみならず、積極的に自分の活動できる場を求め、あらゆる情報を探求する
- 積極的に催し物を企画、参加する ●自分たちができることは自分たちでやる
- 市内にある大学の活用

-----  
行政の役割:

- 自主的に参加しやすい会場、時間も色々に選べる工夫。体験、見学場所をつくる
- 市民の自主性・自発性・独創性を尊重する
- 催し物等、広報にて知らせる
- 市は、松戸にある全ての公共施設を有効に利用できるようにはからい、空きスペース等が無駄なく利用できるようにする

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 講座参加者(人数)、  
講座数(時間帯)⇒ニーズの把握

## 政策9:松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする

目指したい姿の宣言文:

誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”に向けて、皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、松戸を愛する人を増やす。

市民の役割:

- 松戸のガイドをする(になる)ボランティアを増やす
- 市民の意識を高めるよう、色々なところの見学コースをつくる。遠足気分の盛り上がり
- 祭りやイベントを多くする ●松戸の文化伝統継承のため、子供たちに伝える努力

行政の役割:

- ボランティア育成をさらに支援する ●伝統工芸士の活用
- 市内案内役を多くつくる。行政の人がしっかり学ぶ
- ★マンガ松戸市(史を含む)の作成
- ★松戸市の文化について、レベル向上のため「松戸検定」の実施

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 市外の人々の観光スポット等への来場者数。  
市内の人が市の観光スポットに、どれだけ繰り返し来るとかのリピーター数

## 目指したい姿の宣言文:

**子どもたちが自立した人間になるために、地域の力と体験を活かした家庭、学校、地域の新しい関係を通して、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す。**

## 市民の役割:

- 家庭は学校や地域との接点を増やし、自分の家庭以外の子ども達や大人との関わりの中で社会全体で子どもを見守っていく ●家庭教育の見直し ●学校が運営しやすいように協力する
- 市民が持つ力を学校教育、地域活動に役立てる(ボランティア)
- 自分達の持つ種々の技術、能力を出し合って学校や行政に協力する
- 市民は子供たちと接する機会を増やす
- 市民は、専門分野を持つ人が子ども達に将来目標につながる機会を与えられるシステム作りを目指す
- ・子ども達に必要な「生きる力」の共通理解 ・親は子どもを図書館や書店に散歩等に連れていく
- ・読み聞かせのボランティア ・NPOは学校と連携しつつ課題にあたる ・親は温かい家庭を築く
- ・大学は、教育委員会、NPOと課題にあたる ・地域の大人と教育者がもっと密に接する
- ・外国の人と多く接するために簡単な言葉で挨拶 ・異年齢の子が学びあう
- ・寄附書物による図書館の充実
- ・地域で子ども達を育てるための施策を考える ・PTA活動に積極的に参加する

## 行政の役割:

- 学校図書館の充実に向けて、もっと研究し実現する ●図書館の拡大・充実(空教室の活用)
- 学校経営しやすい仕組みを考えて、予算等もできるかぎり増やす
- 行政は地域に「宿題道場」のようなものを開き、地元の人材を投入
- 教育委員会は、地域力を把握し、活用する窓口をつくる
- 学校は地域に求める「力」の情報発信をする
- 教育委員会は、学校が求めている地域の力を調べ、住民に情報発信する ●学校は説明責任を果たす
- ・行政は、低料金で楽しく様々な言葉を学ぶ機会をつくる ・コミュニティ・スクールの試験的導入
- ・国は、子どもに費やす予算を子供たちが利用する例えば園や、学校施設や教材やその他の施設を充実することにあて、誰もが平等に使用できるようにする。
- ・子供たちの未来に必要と思われる専門分野機関をつくる(人物集め、見学)
- ・市民の公共心を高める施策がまず必要。人材の育成 ・行政は書籍購入の予算を増やす
- ・市民の意志の動向に注意し、それをくみ取る。 ・図書館を増やす(ためになる漫画コーナーを含めた)

※●は多数決で過半数の賛同を得たもの、・は過半数には達しなかったもの。

## 指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 学校ボランティアの数、種類
- 学校では「心の豊かさ」を育む体験活動の実施回数
- ・「質問選挙権」のように、おもしろい発想をほめる仕組みを作ってはかる
- ・様々な言葉のクラスの数(習う人数より種類の多さ) 地域一年次
- ・PTAの行事 授業参観・学校評価の結果の公表
- ・各図書館の利用者数・リファレンス回数(席だけでなく、図書利用)
- ・子どもの読書した本 1年100冊は50%

## 政策8：生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

目指したい姿の宣言文：

生涯を通じて学び続ける楽しさを味わうために、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるようにする。

市民の役割：

- 中・高齢者は、市や県が手を差し伸べるのを待つのみならず、積極的に自分の活動できる場を求め、あらゆる情報を探求する
- 積極的に催し物を企画、参加する ●自分たちができることは自分たちでやる
- 市内にある大学の活用
- ・明るい人柄と技術のある人が中心となって、参加者を楽しくできる人が申し出る。

行政の役割：

- 自主的に参加しやすい会場、時間も色々に選べる工夫。体験、見学場所をつくる
- 市民の自主性・自発性・独創性を尊重する
- 催し物等、広報にて知らせる
- 市は、松戸にある全ての公共施設を有効に利用できるようにはからい、空きスペース等が無駄なく利用できるようにする
- ・市は、地域連携モデルの研究を進める ・スポーツ指導者の育成
- ・空き教室やスポーツ施設の拡充 ・図書館・講座の内容告知

※●は多数決で過半数の賛同を得たもの、・は過半数には達しなかったもの。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 講座参加者(人数)、  
講座数(時間帯)⇒ニーズの把握

## 政策9:松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする

目指したい姿の宣言文:

誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”に向けて、皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、松戸を愛する人を増やす。

### 市民の役割:

- 松戸のガイドをする(になる)ボランティアを増やす
- 市民の意識を高めるよう、色々なところの見学コースつくる。遠足気分の盛り上がり
- 祭りやイベントを多くする ●松戸の文化伝統継承のため、子供たちに伝える努力
- ・松戸の歴史、文化、伝統などを市民と行政が一緒になって探索する
- ・松戸神社神幸祭への積極的参加
- ・松戸の歴史文化施設を大切に使い、後世に伝える努力

### 行政の役割:

- ボランティア育成をさらに支援する ●伝統工芸士の活用
- 市内案内役を多くつくる。行政の人がしっかり学ぶ
- ★マンガ松戸市(史を含む)の作成
- ★松戸市の文化について、レベル向上のため「松戸検定」の実施
- ・戸定館の使用について、他の地区の国宝重文の使い方を調査検討し、松戸にいかしていく努力
- ・全国大会(音楽・スポーツ等)で活躍した子ども達を広く周知する。松戸の誇り

※●は多数決で過半数の賛同を得たもの、・は過半数には達しなかったもの。★は具体的施策

### 指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 市外の人々の観光スポット等への来場者数。  
市内の人が市の観光スポットに、どれだけ繰り返し来るとかのリピーター数